

# 厚生 福祉


 時事通信社

104-8178 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信社  
 昭和28年5月30日 第3種郵便物認可  
 毎週2回火・金曜日発行(但し祝日を除く)  
 購読料金 税抜月額4,100円  
 本誌掲載記事・写真などの無断複写、複製、転載を禁じます。  
 ©時事通信社2016  
 ◎誌面内容に関するお問い合わせ(編集部)  
 kousei-dokusha@jiji.com

## 目次

### 胎動する日本のアール・ブリュット

元・駐スウェーデン  
 特命全権大使・渡邊芳樹



このところ「生(き)の芸術」と言われるアール・ブリュット(Art Brut・仏語)が障害者の芸術として日本に定着し、世界的な注目を集めていることは驚嘆に値する。戦後60年近い歴史を背景に2004年に開館したNOMA美術館(近江八幡市)は世界的によく知られている。また日本

の作品は、2008年のスイス・ローザンヌ以来、仏・パリ、蘭・ハールレム、英・ロンドンなどでの展覧会の成功に加えて、2013年にはヴェネチアビエンナーレ国際美術展に出展し、来年以降も仏・ナント、スウェーデンでの展示が計画されている。国内でも滋賀(近江八幡市)、東京(中野区)、北海道(岩見沢市)ほか十数県で活発

な活動が展開され、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの特別事業を目指している。

このアール・ブリュットは、仏の画家ジャン・デュビュツフェが第2次大戦後に提唱した概念で、正規の美術教育や訓練とは無縁に独自の発想と方法で制作された質の高い芸術作品である。既成芸術の意図的差別化と正反対の作為なき純粋な芸術であり、見る人の心を揺さぶり、強い感動を呼び起こす。多くは精神障害者や知的障害者による絵画や彫刻などであるが、障害者の作品が皆アール・ブリュットというわけではない。

日本のアール・ブリュットが何故世界で注目を浴びるのか。作品の芸術的質の高さとともに、将

来に向けて如何なる可能性を見出すのか。日本の特徴の一つが国や自治体と支援者が協働する障害者の芸術活動支援事業の推進にあり、また主として過去の精神障害者の作品を対象としている諸外国の事例に対し、日本は多くの障害者が地域や施設で今も製作中である点にあることに十分留意すべきであろう。

アール・ブリュットが、福祉・医療の世界と芸術の世界の双方に根差しながら人間の根源的存在意義をかけた独自の表現として現れるとき、間違はなく多様な一般市民を巻き込み感動させる。筆者はそこからそれぞれの「まちな個性」が生まれるものと信じる。将来、日本のいくつもの自治体が広く世界に「アール・ブリュットの輝くまち」として知られ、その「希望の光」となることを望んでいる。